

成績評価制度等について

1. 成績評価

成績の評価は、科目担当教員が、試験の成績及び平常の出席状況等を総合して行う。各科目担当教員の評価方法については「授業計画(シラバス)」を参照すること。

グレードポイントアベレージ(GPA)制度は、学生の皆さんが主体的な学修を促進するための指標として活用することを主要な目的として導入するものである。主に担任等による面談など個別指導の際にも用いられる。また、教育実習参加(派遣)等の基準としても用いられている。

成績の発表は、学生用 Web サービス内「学生カルテ」によって行う。発表の時期については別途掲示する。

<GPA 制度>

(GP と成績評価基準)

試験の成績評価の表記、評点、グレードポイント(GP)及び基準は、本学学則第 16 条第 4 項の規定に基づき、次のとおりとする。

	成績表記	評点(標準評点)	GP	評点基準
5段階評価	S (秀)	90~100 点(95 点)	3.5~4.5	到達目標を大きく上回る成績
	A (優)	80~89 点(85 点)	2.5~3.4	到達目標を上回る成績
	B (良)	70~79 点(75 点)	1.5~2.4	到達目標を満たす成績
	C (可)	60~69 点(65 点)	0.5~1.4	到達目標にやや不足するが、合格と認められる最低の成績
	D (不可)	59 点以下(55 点)	0.0	到達目標に不足しており、合格と認められない成績
2段階評価	P (合格)		算定対象外	実習、実験、演習のうち、特定の科目で合格と認められる成績
	R (不合格)		算定対象外	実習、実験、演習のうち、特定の科目で合格と認められない成績
その他	N (認定)		算定対象外	単位認定
	K (欠席)		0.0	試験に欠席した場合
	X (受験資格なし)		0.0	出席時間数不足により受験資格がない場合
	F (不正行為)		0.0	試験において不正行為を行った場合

各授業科目の成績評点に対して付与される GP は、100 点を満点とした評価から 55 点を減じ、これを 10 で除して算出する。ただし、評点が 59 点以下の GP は 0.0 とする。なお、成績を素点によらず 5 段階にて評価する場合は、標準評点に基づき GP を算出するものとする。

(GPA の種類と算出方法)

GPA の種類は、当該学期における学修の状況及び成果を示す指標となる GPA (以下「学期 GPA」という。)並びに在学中における全期間の学修の状況及び成果を示す指標となる GPA (以下「累積 GPA」という。)の二種類とする。

学期 GPA と累積 GPA は、以下の計算式によって算出するものとする。なお、算出した値に小数点第二位未満の端数があるときは、小数点第三位の値を四捨五入する。

- (1) 学期 GPA の計算式
$$\frac{\text{(当該学期に履修登録した GPA 算出対象授業科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{当該学期に履修登録した GPA 算出対象授業科目の単位数の合計}}$$
- (2) 累積 GPA の計算式
$$\frac{\text{(在学中に履修登録した GPA 算出対象授業科目の GP} \times \text{その科目の単位数) の合計}}{\text{在学中に履修登録した GPA 算出対象授業科目の単位数の合計}}$$

(GPA 算出の対象授業科目)

GPA の算出対象となる授業科目は、卒業に必要な単位に算入される科目とする。

ただし以下に該当する授業科目は、GPA 算出の対象外とする。

- (1) 評点を示さず、合格、不合格、認定によって表記される授業科目
- (2) 本学以外の大学で修得した授業科目
- (3) 入学前に大学などにおいて修得した授業科目

また、学期 GPA の計算は、当該学期において履修登録したすべての GPA 算出対象授業科目をもって行う。

なお、過去に単位が修得できなかった授業科目について、後に再履修によって合格の評価を得た場合及び再履修の結果、再び不合格と評価された場合は、過去における当該科目の GP を累積 GPA の計算式から除外する。ただし、それまでの学期 GPA は変更しない。

(GPA の分布状況の公表)

GPA の分布状況は、公表する内容、方法、範囲などについて、教育改善 (FD) 委員会で検討する。

(履修登録単位数の上限の緩和)

前年度の GPA が 3.3 以上かつ前年度に修得した単位数が 40 単位以上の学生は、東京家政学院大学教育課程及び履修方法に関する規程第 8 条の規定に関わらず、年間履修登録単位数の上限を緩和することができる。

(成績不振学生への対応)

各学期における GPA が 1.0 未満及び当該年次における修得単位数の合計が標準単位数の 8 割以下の学生については、学習支援室を通して各学科で指導を行う。

<成績評価に関する問い合わせ制度>

成績発表後、直前の学期の成績評価に問い合わせがある場合は、次の期間内に「成績評価質問票」を学務室に提出する。
成績に関する質問受付期間：成績発表日を含む5日間（日曜・祝日を除く）

<保証人への成績通知書の送付について>

令和4年度前期成績から、「学生用 Web サービス」により成績確認ができるようになった。これにともない、保証人への成績通知書の郵送は、令和4年度前期のものを持ち終了することとなった。

2. 卒業要件

本学を卒業するためには、4年以上在学し、下記の通り必要な単位数を修得しなければならない。

(1) 現代生活学部及び人間栄養学部の各学科の卒業必要単位数は、別表Ⅱ

(2) 現代生活学部及び人間栄養学部の共通教育科目の履修条件は、別表Ⅱの1

なお、学則第58条に定める外国人留学生以外の日本語を第一言語としない学生で、本学の教育に対応する上で「日本語・日本事情」領域科目の受講が特に必要と認められる場合は、共通教育部会の議を経て履修を認めることがある。

別表Ⅱ

卒業必要単位数(令和5年度入学生)

(数字は単位数を表す)

学部・学科	現代生活学部				人間栄養学部	
	現代家政学科	生活デザイン学科	食物学科	児童学科	人間栄養学科	
専門科目	必修	10	10	62	23	98
	選択	54	54	33	51	12
小計		64	64	95	74	110
共通教育科目	必修	7 (13)	7 (13)	7 (13)	7 (13)	1 (7)
	選択	13 (7)	23 (17)	13 (7)	13 (7)	19 (13)
小計		20	30	20	20	20
上記2科目区分の中から自由に選択する単位数【注】		40	30	9	30	0
卒業必要最低単位数合計		124	124	124	124	130

() 学則第58条に定める外国人留学生(編入学、学士入学を除く)の単位数

【注】他学部他学科の専門科目で修得した単位数を含む。

別表Ⅱの1

共通教育科目の履修条件

(数字は単位数を表す)

学部・学科	現代生活学部				人間栄養学部
	現代家政学科	生活デザイン学科	食物学科	児童学科	人間栄養学科
コア科目群	7 リテラシー演習 東京家政学院を学ぶ 現代社会と家政学 キャリアデザイン	7 リテラシー演習 東京家政学院を学ぶ 現代社会と家政学 キャリアデザイン	7 リテラシー演習 東京家政学院を学ぶ 現代社会と家政学 キャリアデザイン	7 リテラシー演習 東京家政学院を学ぶ 現代社会と家政学 キャリアデザイン	1 リテラシー演習
科目群 教養教育	人文科学科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
	自然科学科目	(注3)	2	(注3)	(注3)
	社会科学科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
科目群 スタディーズ	国際理解科目	(注3)	2	(注3)	(注3)
	現代トピック科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
	外国語科目	4	4	4	4
科目群 情報・数理	日本語・日本事情科目	(注4)	(注4)	(注4)	(注4)
	数理科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
	情報科目	(注3)	2	(注3)	(注3)
科目群 スポーツ・健康	データサイエンス科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
	スポーツ科学科目	(注3)	2	(注3)	(注3)
科目群 スポーツ・健康	スポーツ実技科目	(注3)	(注3)	(注3)	(注3)
	共通教育科目の全科目群・科目の中から自由に選択する単位数	9	11	9	9

(注1) 表中の単位数は、共通教育科目の各科目群・科目から修得しなければならない最低単位数を示す。

その単位数は、別表Ⅱの共通教育科目の選択の単位数に含まれる。

(注2) 表中の単位数と共に授業科目名が表示されているものは、必修単位数及び授業科目を示す。

その単位数は、別表Ⅱの共通教育科目の必修の単位数に含まれる。

(注3) 表中の単位数が表示されていないものは、共通教育科目の全科目群・科目の中から自由に選択する単位数に含まれる。

(注4) 学則第58条に定める外国人留学生が履修し修得した共通教育科目「日本語・日本事情科目」の単位は、共通教育科目「外国語科目」の修得単位とみなす。ただし、「日本の歴史と文化」については共通教育科目「人文科学科目」の修得単位とみなす。